

# 「ハーベストガーデン福山」の取り組み

(当麻町 ハーベストガーデン福山 福山 憲昭 氏)



写真1 福山憲昭 氏(右)

## 1 経営の概要

- (1)有機栽培経験年数 20年
- (2)経営規模 1.26ha (全面積有機栽培)
- (3)労働力 2人
- (4)作物別作付面積 (平成 20 年)

きゅうり	トマト	なす	ピーマン	レタス	はくさい	にんじん
120a	50a	60a	50a	120a	80a	85a
スイカ	とうもろこし	こまつな	ブロッコリー	ハクサイ		
60a	70a	50a	60a	80a		

## 2 有機農業取組の経緯等

- (1)有機農業の取組動機
  - ・東京で共働きの生活をしていましたが、子供ができてからは「農」への郷愁が強まり、当時から農家の無農薬野菜を共同購入し始めた。
  - ・31歳のとき脱サラを決意し、北海道で有機農業をすることを選択した。
- (2)取り組み経過
  - ・就農当初から、多品目を作付けし「野菜セット宅配」等を行ってきた。
  - ・作付品目の大きな変更は無い。
  - ・平成13年に有機JAS認定を取得。
- (3)有機農業取組の考え方(こだわり)
  - ・安全・安心で食味の良い農産物の提供を最優先テーマとしている。
  - ・施肥量を抑える等の取り組みを実施し環境負荷の低減に心がけている。

### 3 有機栽培管理技術等の特徴

[ 有機栽培管理の概要 ]

品目名	面積 (a)	作 型			品 種	育苗方法	栽培方法
		播種	定植	収穫			
ピーマン	50	3/5	5/15	6/10	あきの		ハウス
きゅうり	120	3/15	4/20	5/20	黒さんご		ハウス
きゅうり (台木)		3/15	3/25 接木				
アスパラ	20	2/25	3/25	4/20	青葉		ハウス
トマト	50	3/17	5/22	7/15	麗夏		ハウス
ミニトマト	10	3/20	5/22	7/5	ミニキャロ		ハウス
なす	50	1/14	5/5	7/5	黒べえ		ハウス
米なす	10	3/5	5/5	7/5	黒わし		ハウス
ししとう	20	3/5	5/15	6/10			ハウス、露地
青なんばん	5	3/10	5/25	6/20	ロングエース		露地
赤トガラシ	5	3/10	5/25	9/下旬	鷹の爪		露地
スイカ	60	4/5	5/10	8/1	マダ-ホ-ル	4/15 接木	露地
とうもろこし	70	5/1		8/5	ゆめのコーン85		露地
えだまめ	20	5/10		8/1	天ヶ峰		露地
	20	5/15		8/20	上川みどり		露地
	20	5/10		9/5	北海黒大粒大豆		露地
インゲン	20	3/20	4/10	6/10	キセラ		ハウス
アスパラ	20	7/10		9/5	つる有り		ハウス
キャベツ	80	3/10		6/20	近系201		露地
ブロッコリー	60	3/10		6/20	ピクセル		露地
レタス	80	2/20	3/20	5/25	スパーク		ハウス、露地
リーフレタス	40	4/1	5/1	6/10	グリーンウェブ		露地
春菊	15	3/30	4/20	5/20	さとゆたか		ハウス
にんじん	5	3/10		5/10	雪印フレッシュ		ハウス
	60	4/15		7/10	ベータ312		露地
	20	7/10		4/10	小泉越冬		露地
はくさい	80	2/2~		5/20~	仲秋 等		ハウス、露地
カブ	25	3/10~		4/10	スワン		ハウス、露地
ほうれんそう	210	3/10~		4/20	サビア、北エー		ハウス
こまつな	50	3/10~		4/15	よかった菜		露地

[ 栽培管理技術等のポイント、工夫 ]

(1)土づくり

- ・ 10a 当たり 2 t の完熟牛糞たい肥を施用する。
- ・ 石灰資材は牡蠣ガラ石灰などを施用していたが、4 年前から使用していない。
- ・ 肥料は「ボカシ肥料」(魚粕、米ぬか、パームカリ、グアノリン酸を主原料とし水分を加え微生物発酵させたもの)を使用している。

(2)病虫害防除

- ・ 発生予察(ほ場観察)と病虫害の発生しない環境づくり(土づくりや施肥、灌水管理等)を心がけている。
- ・ トンネルは、防虫ネットなどの防虫資材を利用している。

(3)雑草対策

- ・ 基本的に手取り除草が中心である。
- ・ 可能な場所はカルチ除草を実施している。
- ・ ハウス通路は除草シートを使用している。

(4)その他

- ・ 資材として天然ハッカ液に木酢液を混合したものを散布したり、インド梅檀(ニーム)の実(粉碎物)を使用している。
- ・ 育苗はハウスで全量自家栽培・生産である。

## 4 生産物の出荷・販売

(1)集出荷における工夫

- ・ 昭和 59 年に「安全・安心の食」を旨とし「グループ‘ 8 4 」を結成し「野菜のセット宅配」を北海道で初めて実施。平成 15 年からはグループの農家が個々で「野菜のセット宅配」を継続している。
- ・ 「野菜のセット宅配」は消費者の消費量を考慮し、少量多品目出荷している。
- ・ コープさっぽろ、北海道有機農協へは出荷先の要望に応じて出荷している。

(2)販売先との取り決め

- ・ (3)の出荷先と出荷量を事前に協議し全量契約栽培を実施

(3)出荷先

コープさっぽろ 北海道有機農協(札幌) 提携会員への宅配 約 40 戸

## 5 消費者との交流の取組

- ・ 20 年以上に亘り、消費者や生協職員と毎年のように現地で交流会や視察、対面販売を実施している。
- ・ 社会教育活動や新規就農希望者の研修受け入れ活動を通して、人材の育成や都市と農村の交流に努めている。
- ・ ここ数年町内外の児童生徒を対象とした「食育推進事業」などにも取り組んでいる。  
( 農作業体験や給食への食材の提供などを行う )
- ・ 毎週、「宅配セット野菜」会員向けの通信を発行している。

## 6 生産者のつながり、関係機関・団体等との関わり

- ・就農直後から有機農家で「グループ‘84」を結成し、産直活動、消費者との交流を実施している。
- ・当麻町の有機栽培生産者を中心につくられた「当麻町有機農業を考える会」会員として、有機農業の普及拡大に努めている。
- ・(社)北海道農業担い手育成センターの「新規就農アドバイザー」(平成9～14年)として就農希望者へのアドバイスを行ってきた。
- ・現在、当麻町議会議員として町の農業振興に尽力している。

## 7 今後の課題と方向

- ・現在の有機農業は、資材を海外からの輸入に頼りすぎているので、地域内の資源を循環できる「本来の有機農業」を目指したい。そのためには、“森と里山”づくりから始めたい。

作成：上川農業改良普及センター